



ワークショップ当日の様子、苅谷先生の講義を、映像でご覧いただけます！

ベネッセ教育研究開発センター「ポスト3.11 高校生未来プロジェクト」ウェブサイトをご覧ください

<http://benesse.jp/berd/hirakemirai/report.html>

ベネッセ 高校生未来 で 検索 ▶ 「ワークショップ報告」をご覧ください

1 日目

2012年12月26日

高校・大学での学びが社会貢献につながることで実感できれば、学びの意欲が高まるのではないかとという仮説に基づき、2日間にわたって行われたワークショップの様子を紹介する。

『学び』がボクらを、社会を変える」ワークショップレポート

ポスト3.11 高校生未来プロジェクト

20:00 18:00 16:30 15:05 13:35 13:00

大学生・社会人との対話 「学問・勉強と今」



多様な出会いから 学びの意味を知る生徒

グループごとに大学生と社会人1人ずつをゲストに迎え、学びについてそれぞれの体験を聴き、感想や意見を述べ合った。夕食を取りながら1時間30分ほど対話を続けた後、全員が1日目の感想を述べ、宿舎へと移動した。

高校生が語った 「1日目が終わっての気付き」

- 前を見るというのは、皆と向き合うことだ
- 自分に知識がないことが分かった。生きるために考える力を身に付けたい
- 人と話すことが楽しかった。話すために知識を身に付けたい

苅谷剛彦先生の講義 「学問と社会のつながり」



社会における 学びの意味を考える

苅谷先生の著書『学校って何だろう』（ちくま文庫）を事前に読んだ上で、実際に大学で行われる教育社会学の講義に臨んだ。「高校で学ぶ内容は、人類が積み重ねてきた知識のほんの一部ではない。その宝の山を目の前にして学ばないことはもったいないし、学んで無駄になるようなものは1つもなし」「これからの社会では、解決すべき問題がたくさんある。知識の伝承だけではなく、知識を創り出すことも大切」などの苅谷先生の言葉に聴き入った。

8つのテーマから 自分が語りたいテーマで対話



8つのテーマ例

夢の職に就けなかった時、なんて自分は思うのか/今勉強していることと、大学とのつながり/偏差値が良い学校に行って何がしたいのか

高校生活の疑問を 吐露する生徒たち

前のセッションの最後に、全体で語り合いたいテーマとして各グループから計8つのテーマが出された。その中で自分が語りたいテーマを選び、15分ほど語り合った。その後、違うテーマに移動し、語り合いを重ね、グループごとに話し合った内容を全体発表した。

高校生の対話の中での声

- 「夢が破れた時」というけれど、いつ、何をもって破れたというのか
- 説明されれば進路が選べるというわけでもない。分からないまま選んでいる人もいる
- どんな大人になりたいのかと問うけれども、大人になるために何が必要かを教えてほしい

自分が大切にしている価値観、 問題意識を語り合う



高校生が書いた付箋より

- なぜ英語は文系にも理系にも必要なのか
- 高校の頃からやりたい学問を学んではいけないのか
- 動画を見て勉強する塾もあるのに、なぜわざわざ学校に行くのか
- 「大学入試のために勉強する」と言ってくれた方が気が楽
- 大学に行かない理由が見付からないので、大学に進学する

自分の大切なもの、 気になることを語る

「自由」「お金」「社会的評価」など28のキーワードが記された価値観マップから、大切だと思うものを丸囲みし、4、5人のグループで自分のベスト3とその理由を発表し、質問をしながら感想を語り合った。その後、「高校での勉強」「大学での学問」「社会貢献」「未来・将来の自分」で、思い付いたことや気になることを1項目につき5枚以上付箋に書き、模造紙に貼りながら語り合った。

ワークショップ開始 多くの人と自己紹介



多様な仲間との 出会いを実感する

全国から集まった34人の高校生、2人のファシリテーター、そして苅谷剛彦先生が大きな輪になり、自己紹介からスタート。ワークショップ開始前に記入した自己紹介シート（自分を動物に例えると/参加した理由/2日間の期待について記入したもの）を持って会場内を歩き、5分間で出来るだけ多くの相手に話し掛け、自己紹介をしていった。

高校生の「学び」への思いの変化

愛知県／公立／女子／2年（当時）

◎参加前

高校で学ぶことのほとんどが、将来の生活では直接必要のないことばかり。それでも勉強をする理由はただ1つで「センター試験で必要だから」。しかし、センター試験は将来につながる。結局、勉強は将来のためにするものだ。だから、センター試験で良い点を取ることが、今高校で学ぶ意味だと思っ

◎1日目終了時

こんなにも皆の価値観が違うとは思わなかった！ 皆の答えがしっかりしていて驚いた。ずっと頭を使っていたので、とつても疲れていろんな意味でモヤモヤしている。

◎2日目終了時

日本や世界の問題について、「自分とは関係ない」ではなく、積極的に問題に立ち向かっていきたいと思った。高校での学びは、夢をかなえるための学問が学べる大学へ行くための通過点であり、高校での時間は夢を見付けるための時間でもあると思う。

REPORT ワークショップの企画概要、参加高校生の
変容をまとめた報告レポートを掲載しています！

ベネッセ教育研究開発センター「ポスト3.11 高校生未来プロジェクト」ウェブサイトをご覧ください
<http://benesse.jp/berd/hirakemirai/report.html>
ベネッセ 高校生未来 で 検索 ▶「ワークショップ報告」をご覧ください

ポスト3.11
高校生未来プロジェクト

『「学び」がボクらを、
社会を変える』
ワークショップ概要

●参加者
全国の高校1～3年生34人
(男子13人 女子21人)
*学年内訳(1年生11人 2年生17人
3年生6人) / 地域内訳(北海道・東
北6人、東京除く関東・甲信越6人、
東京6人、東海・北陸3人、近畿5人、
中国・四国2人、九州・沖縄6人)

●期間
2012年12月26日(水)～27日
(木) 1泊2日

●会場
東京大本郷キャンパス 福武ホー
ル内 福武ラーニングスタジオ
(東京都文京区)

●宿泊施設
東京セントラルユースホステル
(東京都新宿区)

●参加費
無料
*宿泊費、開催中の食事代含む。現地
までの交通費は規定に基づき一定額
を補助

●募集方法
『VIEW21』高校版2012年10月号
にポスターを同封の上、ベネッセ
教育研究開発センターウェブサイ
ト内に特設申し込みページを設
置し公募。100人を超える応募か
ら、作文課題の内容により審査。

募集人数：約30人
(学年は問わず、日本国内の高等
学校、およびそれに準ずる学校に
在籍する生徒を広く募集)
受付期間：2012年10月7日～11
月11日
作文課題：あなたはこれからど
んなことを、どのように学びたいと
思いますか？ 将来の社会貢献
とのつながりや、自分が大切にし
ている価値観を踏まえて、今の考
えを書いてください(800字程度)。

●企画協力
荻谷剛彦先生(オックスフォード
大教授 / 元東京大教授)

●運営協力、当日ファシリテート
與良昌浩氏(株式会社スコラ・コ
ンサルタント / ハタモク代表)
生田早智江氏(One&Only 代表 /
ハタモク副代表)

●主催
ベネッセ教育研究開発センター
「高校生未来プロジェクト」事務局

15:00 13:40 13:00 11:15 10:45 9:30

半年後の自分への 手紙をしたためる

今日の気付きが 未来の自分を変える

各自便せんに向き合い、半年後の自
分への手紙を書いた。ワークショップ
で学んだこと、これから行動してい
きたいこと、頑張ったであろう半年後の
自分へのメッセージなどを書いた。そ
して最後に、全員が再び1つの輪にな
り、今回のワークショップの感想や気
付き、自分にとっての学びの目的を一
言ずつ発表して、2日間のプログラム
が終了した。「半年後への手紙」は、
2013年6月に各自の手元に届く。

ワークショップを終えて

- ・学びによって世界の課題を解決できるこ
とが分かって、もっと勉強したくなった
- ・学びは新しい自分を見いだすためのもの
だと分かった
- ・社会人はいろいろな知識や体験があるか
ら豊かな話が出来るのだと思った
- ・対話の素晴らしさを知ったのは私たちの
特権。その特権に対する義務は、対話の
素晴らしさを学校に戻って伝えることだ

学びの目的を共有し 励まし合う

「マナモクシート」の項目

- 社会とどうつながっていき
たい？(どう社会に貢献したい？
人の役に立ってみたい?)
- 自分なりに考える大学での学
問の意味・目的は？
- 自分なりに考える高校での勉強の意味・目的は？
- この2日間で気づいたこと、感じたこと
- 明日から考えてみよう、行動してみようと思っ
たこと

明日からの具体的な 行動に落とし込む

学びの目的について考える「マナモ
クシート」を各自記入し、内容をグルー
プで共有した。そして各自の「明日か
らの考え、行動」について、互いにア
ドバイスや応援メッセージを付箋に書
き、渡し合った。

「マナモクシート」の言葉より

- ・まず宿題をやる
- ・授業中に疑問を感じたら皆で話し合いたい
- ・英語の勉強を頑張って、自分の世界を広
げたい
- ・高校生が政治について語り合うSNSを
立ち上げる

高校での「勉強」の 意味・価値とは？



日々の勉強の意味を 大きな視野で語る

語り合いの最後のテーマは「高校で
の『勉強』にどのような意味・価値・
目的を見いだすか」。当初、「大学入試
のため」と考えていた生徒もいたが、
この場面では他者とのかわりや、長
期的な価値を語るようになっていた。

高校生が考える「勉強の意味・目的」

- ・勉強することで自分の中に価値が出来る
- ・将来を通して学ぶ力を身に付けるため
- ・常識を身に付け、新しい世界観をつくる土
台を築く
- ・抽象的な考え方を身に付け、大学の学び
につなげていく

大学での「学問」の 意味・価値とは？



自分の中の学びの 欲求を追究する

3つめのテーマは、「大学での『学問』
にどのような意味・価値・目的を見
いだすか」。これまでの話し合いで得た気
付きを踏まえて、学年別にグループを
つくって話し合った。

高校生が考える「学問の意味・目的」

- ・いろいろなことを学ぶのが大学。とにか
く楽しみたい
- ・社会に出た時に通用するように引き出し
を増やす
- ・知識は社会を形づくるために必要なもの
- ・人よりもたくさんを知りたいとい
う欲求があるから学ぶ

実現したい社会と、 そのために出来る貢献は？



高校生の自分と 社会との関係を考える

4つのテーマでのグループセッシ
ョンを開始。まずは「20年後に実現され
ていたい社会」「その実現に向けてどの
ような貢献の仕方が考えられるか」と
いうテーマで、グループの組み合わせ
を変えながら話し合った。

高校生が語った「自分が出来る貢献」

- ・ボランティアなど身近なことからやりたい
- ・選挙に参加する。社会のことを知らない
から投票に行かないのでは？
- ・中学生や高校生でも社会のことを知る場
を増やしたい
- ・社会の問題に対して当事者意識を持つ

高校生の「学び」への思いの変化

■神奈川県 / 私立 / 男子 / 1年(当時)

◎参加前
自分の意見、考えを持った人たちの意見を
聞いて、「なぜ勉強するのか？」の答えを探
そうと思う。最近、自分にとってこの問いが「勉
強から逃げるための道をつくっている」よ
うな気がする。「勉強」は「生きる」と同じで、
そもそも理由などないのではないかと。自分の
考えだけでなく、他人の考えも聞いて答えを
見付けたい。

◎1日目終了時
自分はちっぽけな考えにとらわれていた。
人の意見を聞いて視野を広げられた。荻谷先
生の話で、自分たち世代が知識を生かして社
会をより良くするという部分に納得した。

◎2日目終了時
自分の知識を誰かと共有することでより深
めるのが大学の学問なのだなと思った。今の自
分はあまりにも知識や経験が少ないので、思
い付きでものを話しているような気がした。
だから、多くの本を読み、いろいろな活動に
取り組みたい。

■ワークショップを見学した高校教師より

◎これまで、今回のようなワークショップを
授業に取り入れることに躊躇していた。しか
し、生徒の変化の瞬間に立ち会い、自分の考
えは間違っていたと実感した。価値観が大き
く変わった。
(北海道 / 公立)

◎生徒の熱い思いに触れることが出来た。だ
が、多くの生徒は1か月も経つと、今回の経
験を「良い思い出」として完結させる。今後
のフォローや日常に飲み込まれないための工
夫をどのように行うかが大切だと感じた。
(三重県 / 公立)

■オックスフォード大 荻谷剛彦先生より

◎「学ぶ」ということが自分の生き方や、社会
とどうつながっているのか？ 生徒たちは、
たくさん気付きを得たことと思います。大
学受験を中心とした社会的な選抜システムに
よって、生徒の日々の生活の中に語り合いが
少なくなっています。社会システムを変えて
いくことは難しく、先生個々人や企業の力で
は全ての解決は出来ないかもしれませんが、
このような取り組みを続けていけば、志を同
じくする仲間が増え、学びに対して前向きに
なれる高校生が増えてくるはずです。